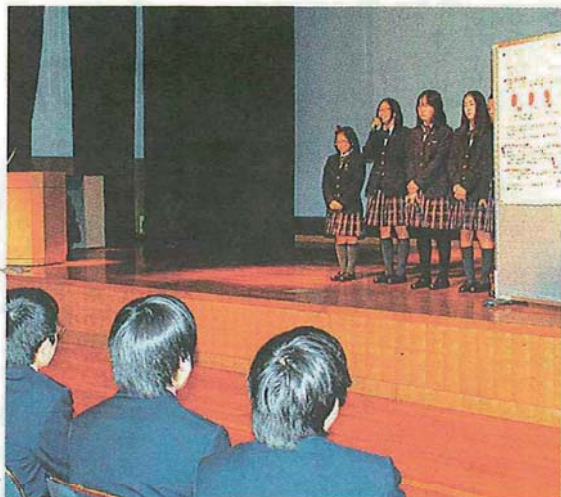


(23) 2月12日(土) 平成23年(2011年) (第三種郵便物認可)

市民タイムス

中・高・大 学校越え交流

信大、志学館、秀峰が発表会



年齢や学校の垣根を越えて学び合うことで、学

習への理解を深め、豊かな人間形成を図ろうと、

志学館高校、松本秀峰中等教育学校は授業や部活動での学生・生徒間交流を続けている。1年間の活動の成果を披露する初

めでのフォーラム「中高大でsekai(せかい)を考える」が11日、松本市内で2日間の日程で始まり、中学生、高校生、大学生が交流の中で見つけた「世界」について発表し合っている。初日は中央1のMウィングで信大と秀峰中等教育学校の発表があった。人文学部英語学専攻の学生と秀峰の1期生に当たる中学1年生は昨秋から総合学習や「外国語部」

の部活動で共に学習しており、秀峰の生徒がその成果を披露した。世界の自然や文化の多様性を理解するために調べた、韓国と日本の料理の違いを説明し、米国、英国、日本の遊園地事情を地理や文化の違いから指摘した。客席で聞いた信大3年の青木佳萌さん(21)は「彼らの発表がうまくいくか心配だったが、理解を深めて上手にまとめた」と成長を喜んだ。信大人文学部と秀峰が昨年9月に連携協定を結んだ縁でフォーラムが企画され、以前から信大と交流のあった志学館高校も加わった。人文学部の花崎美紀准教授は「時間を共有し、教え合うことが、無限の可能性を秘めた若い世代の力になる」

大学生との交流を通して深めた学習の成果を発表する秀峰の生徒たち

と話している。12日はまる。午前10時半から午後0時半まで。
館高と信大の発表があ
(有賀文香)